

世田谷区国分寺崖線における 坂道の持つ空間特性と役割

1g01j069-9 西牧 耕平*

Kohei Nishimaki

台地と低地を結ぶ斜面地は眺望に富み、景観に優れている為、たびたび映画や小説に描かれ、人々に親しまれてきた。古くから斜面地が人の暮らしに趣きを添えていたことは見逃せない事実である。坂道、あるいは階段を利用して斜面地を体験することにあたり、どのような要素がその印象の強さを左右しているのかを考察する。また、世田谷区国分寺崖線についてその現況を分析することにより今後の斜面地研究の一助とする。

Key Words: 坂道、斜面地、国分寺崖線、景観

1. 研究の背景

古くには斜面地は日照条件の良さから植林が行われており、緑が生い茂っていたのだが、明治期以降の人口増加に伴う都市化の要請により、斜面地にも宅地化の波が押し寄せることとなった。その過程において斜面地も地形改変が行われ、平坦な宅地、崖、階段、坂道が造成された。これによって斜面地の魅力を失った地域も数多く出来たが、一方で魅力を強める地域も出来た。ではその差はどこから生まれたのか。斜面地は重要な景観要素であり、造成のしかた一つでその場所の印象が大きく変わると考えられる。また、地形の上に建てられる構造物の寿命は短い、地形自体は大幅に変えられることなく土地の歴史を伝えていくことから、特に斜面地の利用法には注意を払う必要がある。

2. 研究の目的

宅地開発の影響により造成された坂道について、それを特徴づけるものとして、その物理的側面、歴史的側面、意味的側面に着目し、坂道及びその周辺の空間構成を明らかにし、評価することにより、どのような要素が場所の景観的印象を左右しているのかを解明することを目的としている。また、世田谷区国分寺崖線上の坂道において現況を調査分析することで、今後の斜面地研究の一助となることも狙いの一つとする。

3. 研究の位置づけ

斜面地に関する既存研究には以下のようなものがある。

- ① 地形による都市形成への影響に関する研究
- ② 眺望等景観に関する研究
- ③ 空間構成に関する研究
- ④ 斜面住宅に関する研究
- ⑤ 崖崩れ等環境に関する研究

①では例えば、畑中¹⁾は市街地拡大と地形との関わりを模型を用いて三次元的に明らかにする手法を用い

ている。

②では例えば、千葉²⁾は日暮里富士見坂から富士山への眺望景に関して地形と土地利用との関わりを明らかにしている。

③では例えば、福田³⁾は漁師町地区の家屋位置、出口の方向、海側の間口、奥行きと地形、道路との関係を明らかにしている。

また④で、小林⁴⁾は地形と建物の関係を斜面と住宅の取り付け、斜面と外部空間、斜面と戸外のたまり場空間に注目している。

⑤では、山本⁵⁾は沖縄県の本島中部地域の地形や地質を詳細に把握し組積造建築物の研究の基礎的情報としている。

本研究の位置づけは②、③の内容をまたいでいる。坂道を景観の視点から捉え、物理的側面、歴史的側面、意味的側面から読み解く研究は、菅見では見当たらなかった。本研究は今後広がっていくであろう文脈を生かしたまちづくりを進めるに当たって一つの参考になると考える。

4. 用語の定義

以下に本稿で用いる用語を定義する。

① 斜面地

本研究では台地と低地という二つの領域の境界に存在する斜面とその周辺地域を斜面地とする。

② 崖(擁壁)

広義には、「ある程度の比高を有する2つの地形面を接続する(あるいは境する)斜面地で、しかも切り立てたような極めて急な勾配をもつ斜面」である。一方、都市内において「崖」という時、コンクリートや自然石等で被覆された擁壁を指す場合が多い。崖は開発された斜面地を構成する象徴的空間要素である。そこで本稿では「自然地形と関連性を有する人工的に改変された擁壁および土提」を狭義の崖と定義し、調査対象

③ 斜面緑地

本研究では斜面緑地を「屋敷林も含む斜面上に残存する樹林または低木」と定義する。

④ 階段

広義には「高低差のある二つの空間を結ぶ段々状になった構造物」であるが、本研究ではそれに加え、「野外に建設されたもの」を加えることとする。

⑤ 坂道

「斜面地にある道路または歩行者通路」だが、本研究では単一の施設へのアプローチとしてのものは除外することとする。

⑥ 中間領域

台地部と低地部の地域の性質に大きな差異があり、その異質な 2 点を繋ぐ斜面地を本研究での中間領域と呼ぶ。

5. 調査分析の方法

本研究は文献調査及びフィールド調査に基づく。文献調査、地図の読み取りにより対象地域の特性を把握する。また、フィールド調査により坂道の景観の現況を明らかにする。

5.1 対象地域

地域の歴史を残し、世代を超えて人の心に残る原風景として存在する国分寺崖線において調査分析することとする。その中でも特に世田谷区内においては、地形条件が似ており、また、行政が斜面地に一定の価値を認めていることから、坂道を造成するに当たっての工夫や特性を読みとることが出来ると考えられる。また、プレ調査により、戦前からある坂道と戦後に新しく生み出された坂道それぞれについて、一定のサンプル数が確保出来ることもわかっていたため、対象地とした。



図1 世田谷区内国分寺崖線の位置
(世田谷区HPより出典)

5.2 フィールド調査

フィールド調査の内容として以下の3点を調査する。

(1) マクロな視点で斜面地の持つ役割について以下の3種に分類する。

- ① 台地と低地という明らかに異質なものをつなぐ中間領域としての斜面地
- ② 緑地空間、景園地としての斜面地
- ③ 宅地空間としての斜面地

(2) ミクロな視点で景観の空間構成について特に以下の点に着目して調査する。

道路に関して①斜面に交差、②斜面に並行の2種類に分類する。また、線形別に、①曲がり、②折れ、③直線の3種類に分類する。その他に延長、幅、勾配、車線数、形態、舗装の仕様についても調査する。

崖に関して①大規模、②小規模の2種類に分類する。

階段に関して、沿道沿いにあるかないか、ある場合は勾配について評価する。

斜面緑地に関して、緑地の多少について評価する。

玄関の数に関して、沿道の住宅の玄関の数を調査する。

5.3 文献調査

対象地域の斜面地の変容について把握するためには世田谷区の大まかな地勢の状況を把握することが必要となる。そこで本研究では対象地域の歴史的変遷、地理条件を文献調査により明らかにする。

具体的には、

- ① マクロな視点で、対象の周辺地域の都市構造について調査する。ここでは世田谷区都市計画図を用いて現況調査と併せて考察する。
- ② 昭和12年東京一万分一地形図集成及び東京都2500デジタルマップ地形図画像を利用し、縮尺を揃えて重ね合わせることで戦前と現在においてその線形がどのように変わったかを考察する。

6. 現況調査結果

現況調査は世田谷区内の国分寺崖線に沿った53ヶ所で行った。調査の結果を表1に示す。以下表1に示した分類のうち、タイプ以外の指標について述べる。

※1 名称については、名称がついているものについてはそれを明記し、ついていないものに関しては坂道の下端の番地を名称の代わりとしている。

※2 断面構成については、片側ガードレール付1車線2歩道の場合は1+1+ (1、2車線0歩道の場合は0+2+0) というように表記することとする。

※3 宅地密度については、玄関というものは住宅への出入りの装置であることから、生活感を最も感じられる装置であると考えられる。坂道はその勾配により、隣接する住宅によっては坂道の上に玄関を持たないものも存在する。それらの住宅は坂道を回遊する場合、生活観を感じる事が無い。よって各坂道に接する玄関の数(但し、1施設につきその上限を1つとする)をそ

の延長で割り、100m当たりの玄関の数を算出する。筆者の経験からこのように算出された数字が 5.0 未満は宅地密度が「小」さいとし、5.0 以上は「大」きいと分類し、沿道の様子を捉えるひとつの指標とする。

※4 線形変化については、昭和 12 年の地形図との重ね合わせにより、戦前と戦後にてその線形が変わらないものを「旧」、線形が途中改変されているものを「改」、戦後に新しく造成されたものを「新」と表記する。

※5 性質については、坂道は延長のあるものであり、同じ性質を持つエリア内に存在するものと、違う性質を持つ 2 つ以上のエリアをまたぐものがあると考えられる。但し、ここで言う性質とは、住宅の質や宅地面積の広さなどである。そこで、対象地域及びその周辺

のエリアを、現地調査で得た知見、及び「世田谷区都市計画図」を用いて各エリアをその性質によって分けることとし、それを分析における重要な指標の 1 つと捉える。これをもとに作成した全体図から、各坂道の性質を複数のエリアをまたぐものと、単一のエリア内に存在するものの 2 種類に分けた。これをそれぞれ「複」「単」と表記する。

7. 地区の特徴

7.1 地区ごとの考察

野毛地区

戦前から区画整理が進んでおり、古くから宅地として利用されてきた。台地部、低地部だけでなく斜面上においても宅地開発が進んでいた。また、戦後にさら

表 1 対象地の現況調査結果及び分類したタイプ

地区	名称※1	物理的特徴													歴史的特徴	意味的特徴		タイプ		
		道路自体の特徴							沿道の様子							線形変化※4	役割			性質※5
		道路形状	対斜面	坂道の向き	全長 (m)	幅 (m)	勾配	断面構成※2	滑り止め	崖	階段	緑地	玄関の数	宅地密度※3						
野毛	野毛2-3	直線	交差	南西	100	6	緩	1+1+1	無し	小	無し	少	8	大	新	宅地	単	混在型	短区画道	
	野毛2-4	直線	交差	南西	100	4	緩	0+1+0	無し	小	無し	少	7	大	新	宅地	単			短区画道
	野毛2-7東	折れ	交差	西	100	6	急	1+1+1	円形	半々	無し	多	5	大	改	中間	単			長区画道
	野毛2-7西	折れ	平行	南	150	4	急	1+1+1	円形	半々	無し	多	8	大	新	中間	単			長区画道緑
	野毛2-13	曲がり	平行	南西	100	2	緩	0+1+0	円形	小	無し	少	13	大	改	宅地	単			短区画道
	野毛2-15	折れ	交差	南西	100	6	並	1+1+1	円形	大	無し	少	6	小	改	中間	単			長区画道
	野毛2-20	折れ	平行	西	150	4	急	0+1+0	円形	大	無し	多	3	小	新	中間	複			長小道
	野毛2-27	直線	交差	南西	50	2	並	0+1+0	無し	小	無し	少	3	大	新	宅地	単			短区画道
上野毛	野毛2-22	折れ	平行	南東	150	6	緩	0+1+0	円形	大	無し	多	6	小	改	緑地	複	長小道		
	明神坂	折れ	平行	南西	150	6	急	0+2+0	円形	大	無し	多	5	小	改	中間	複	混在型	長小道	
	稲荷坂	曲がり	交差	南西	200	10	並	1)+2+ (1)	無し	大	無し	多	3	小	改	中間	複	幹線道緑		
瀬田	まむし坂	曲がり	平行	南	400	10	緩	1)+2+ (1)	無し	小	急	多	8	小	新	中間	複	幹線道緑		
	瀬田1-5	折れ	交差	南東	75	6	急	1+2+1	円形	半々	並	少	5	大	新	宅地	単	短小道		
	行善寺坂	折れ	並	南	200	6	急	1+1+1	無し	小	無し	少	12	大	旧	中間	単	長区画道		
	行火坂	直線	交差	北西	50	4	急	1+1+1	円形、縦線	大	無し	多	0	小	改	緑地	複	短小道		
	瀬田1-11	直線	平行	南	400	8	緩	0+2+ (1)	無し	大	急	多	1	小	旧	中間	複	幹線道緑		
	瀬田2-31	折れ	平行	西	200	6	緩	0+1+ (1)	無し	大	緩	少	1	小	新	中間	単	長小道		
	瀬田2-32	直線	交差	南西	100	15	急	1+2+ (1)	無し	大	無し	少	1	小	新	中間	複	幹線道		
	瀬田4-14	曲がり	平行	南西	150	6	並	1+1+1	円形	半々	無し	多	12	大	旧	宅地	複	中小道		
岡本	慈眼寺坂	曲がり	交差	南西	150	8	緩	0+1+ (1)	無し	小	無し	少	5	小	旧	宅地	複	長区画道		
	瀬田4-9	折れ	平行	南西	200	6	並	1+1+ (1)	円形	小	無し	多	11	大	改	中間	複	長小道		
	馬坂	曲がり	平行	南西	150	6	緩	1+2+1	無し	大	無し	少	3	小	旧	宅地	複	中小道		
	無名坂	直線	交差	南西	150	8	急	0+1+ (1)	円形	大	緩	多	7	小	新	宅地	単	長区画道		
	岡本1-9	曲がり	交差	西	100	6	並	1+1+1	円形	大	無し	少	2	小	旧	中間	単	長小道		
	岡本2-35	直線	交差	東	100	6	急	1+1+1	円形	小	無し	多	6	大	新	宅地	単	短区画道		
	岡本1-10	直線	交差	西	150	6	並	1+1+1	無し	小	無し	多	7	小	新	宅地	単	長小道		
	岡本2-27	折れ	平行	東	100	6	並	1+1+1	円形	大	無し	少	8	大	新	宅地	単	長区画道		
	岡本1-20	折れ	交差	南	150	4	緩	0+1+0	無し	半々	無し	多	10	大	改	宅地	複	中小道		
	大蔵通り	直線	交差	南東	100	8	並	1)+2+ (1)	円形	小	無し	多	4	小	新	中間	複	幹線道緑		
	岡本1-25	直線	交差	南西	150	6	並	1+1+ (1)	無し	小	無し	少	11	大	新	宅地	単	長区画道		
	岡本1-28	直線	交差	北東	200	6	緩	1+1+1	無し	小	無し	少	17	大	新	宅地	単	長区画道		
	岡本1-30	直線	交差	西	150	8	並	0+2+ (1)	無し	小	無し	多	14	大	新	宅地	単	幹線道		
	八幡女坂	折れ	交差	南西	200	4	並	0+0+1	無し	無し	緩	少	2	小	旧	緑地	複	長小道緑		
	堂ヶ谷戸坂	直線	交差	南西	100	6	急	0+1+0	円形	小	無し	多	6	大	旧	中間	単	長区画道急		
	岡本3-30	折れ	交差	西	150	6	急	0+1+0	円形	大	無し	少	11	大	新	中間	単	踊り場		
	岡本3-37	直線	平行	北西	150	6	急	1+1+1	円形	大	無し	多	5	小	改	中間	単	長区画道急		
岡本3-39	直線	平行	北西	150	8	急	0+1+ (1)	円形	小	緩	多	4	小	新	宅地	単	長区画道急			
大蔵	座頭ころがし坂	曲がり	平行	南	150	4	急	0+1+ (1)	無し	大	無し	多	0	小	旧	中間	複	長小道緑		
	大蔵4-6	曲がり	平行	南東	300	8	並	0+2+ (1)	無し	大	緩	多	0	小	改	中間	複	幹線道緑		
	大蔵3-1	曲がり	平行	南西	200	6	緩	0+1+ (1)	無し	大	無し	多	0	小	旧	緑地	複	長小道緑		
	大蔵5-18	直線	交差	南西	100	4	並	0+1+0	無し	小	無し	少	8	大	新	宅地	単	短区画道		
	大蔵5-17	曲がり	交差	南西	100	4	並	0+1+0	無し	小	無し	少	6	大	旧	宅地	単	短区画道		
喜多見	喜多見6-16	直線	交差	南西	150	4	緩	0+1+ (1)	無し	無し	無し	少	5	小	旧	宅地	単	長区画道		
	喜多見6-18	曲がり	平行	西	100	4	緩	0+1+ (1)	無し	大	無し	少	6	大	旧	宅地	複	長小道		
成城	成城1-7	折れ	交差	南	100	4	並	0+1+0	無し	小	無し	少	14	大	新	宅地	単	踊り場		
	病院坂	曲がり	平行	南	250	8	並	0+2+ (1)	無し	大	無し	多	0	小	旧	中間	複	幹線道緑		
	お茶屋坂	直線	交差	南西	100	2	急	0+1+0	円形	半々	無し	多	4	小	旧	宅地	複	長区画道急		
	成城3-14	折れ	交差	南西	100	4	急	0+1+0	円形	大	無し	少	13	大	新	宅地	複	踊り場		
	成城3-10	折れ	平行	南	200	4	緩	0+1+0	無し	小	無し	多	19	大	旧	中間	単	長区画道緑		
	なかんだの坂	曲がり	平行	西	100	4	緩	0+0+1	無し	無し	緩	多	0	小	新	緑地	複	長小道緑		
	不動坂	曲がり	平行	南西	100	6	急	1+1+1	無し	大	無し	多	8	大	改	中間	複	中小道		
成城4-30	直線	平行	南	200	2	緩	0+1+0	円形	小	無し	多	15	大	改	宅地	単	長区画道緑			

に区画化が進んだとみられ、道路の線形が更新されているものも多く見受けられた。一方、昔からある坂道はその線形を改変され地域にその歴史を残している。

上野毛地区

戦前において台地部はすでに区画整理が済んでいる。しかし低地部は果樹園が広がっており、人の居住は始まっていない。この地域及び野毛地区北側は延長の長い中間領域としての役割をもった坂道が多く存在している。これは古くから台地と低地において利用法が異なっていた為であろう。

瀬田地区

この地区には比較的延長の長い昔ながらの坂道が多く残っている地区であるといえる。行善寺付近においては古くから集落が存在し、戦前から斜面上にも民家が立っていた。斜面利用が活発であったことが考えられる。また、世田谷線を挟んで北側においては、台地部には昔ながらの集落が、低地部は戦前に区画整理及び宅地開発が始まっていた。玉川神社付近は古くから斜面利用がされており、平地部だけでなく斜面上においても民家が建ち並んでいた。

岡本地区

北西部は窪んでいる地形であるためか、戦前には宅地化が進んでいた。それ以外の地域においては戦後に開発が進んだ。よってこの地域には線形が新しい、宅地の役割を持つ坂道が多く存在する。比較的新しい新興住宅地であるといえる。西側においては、台地上に古くはちらほらと民家があったが低地部には荒地が広がり、斜面上は植林地として利用されていた。その為、古くからある坂道が多く、線形が変わらないものが多い。

大蔵地区

古くは台地部には荒野が広がっており、低地部は宅地化が少しずつ進んでいた。全体として、坂道は古くからあるものが多い。但し 5 丁目については戦前より変わらない線形の坂道が多く見当たり、古くから宅地化が進んでいる地域であった。

成城、喜多見地区

成城 3 丁目、喜多見 6 丁目あたりは戦前から宅地開発が始まったところであった。このころ低地部はまだ荒地のままである。1 丁目は古くから砧小学校付近では宅地開発が進んでいた。なお低地部には民家がちらほらと広がり、台地部は樹林地として利用されていた。4 丁目では小田急線より北側では戦前は宅地開発が進んでおらず、雑木林及び桑畑が広がっていた。南側では低地部において開発はされておらず、台地側では区画整理され、宅地開発がされつつあるというところである。なお、斜面上は雑木林が広がっていた。

以上より、戦前には多くの地域で台地側で開発が進んでいたことがわかった。ここから、古くより、眺望を得られる台地部に居住することが人々に好まれていたと考えられる。また、神社の付近には例外にもれず集落が存在しており、当時の生活の中心に信仰があったことがうかがい知れる。神社の付近などではこの頃からすでに斜面上の宅地利用が開始していたことがわかった。また、中間領域タイプは現在において台地部と低地部においてその利用法が違う（異質である）ということで定義していたが、それは多くの場合、戦前の台地部と低地部の利用法が違うことに起因しているということがわかった。

8. 地区の分類

8.1 地区のタイプ分類

7.1 の結果より、各地区を 3 つのタイプに大別した。それぞれの詳細を以下に、分類結果を表 6 に示す。

①旧住宅地型

戦前よりその区画に大きな変化がない地区である。戦前の計画は戦後のそれと比べて需要が大きくないため、区画が過密化していないのが特徴である。

②新興住宅地型

戦前に区画整理が行われていない地域が戦後ににおいて区画整理が進んだ地域がこれにあたる。戦前は主に畑や雑木林だったものである。区画が過密化しているのが特徴と言える。

③新旧混在型

戦前の区画と戦後の区画が共存している地区である。おおまかな区画が戦前、詳細な区画が戦後に造成されたものがこれに当たる。

9. 坂道のタイプ分類

9.1 タイプ分類の観点

坂道を、主にその景観的印象及び現況調査結果よりタイプ分類しその特性を考察した結果、主にその形状から 3 つのタイプに大別できた。

①区画道 ②幹線道 ③小道

の 3 つである。①は、同質な性格を持つ 1 つのエリア内に存在する坂道であるといえる。また、この観点で言うと②と③は 2 つの異なるエリアをまたぐ坂道であると言い換えることができる。とりわけ②は道幅が広く、延長の長い、また、交通量の多い坂道であるといえる。③は②に比べるとその規模は小さく、2 つのエリアの境界上にある坂道であるといえる。これより、それぞれの分類からさらに細分化してタイプを分類する。

①区画道

区画道はその延長により、

①長い ②短い

の 2 タイプに分類することができる。それぞれを、「長区画道」、「短区画道」と定義する。これは 100m 以下を短いとし、それ以上を長いとして分類した。また、このうち①の「長区画道」はその物理的条件及び沿道の様子から、さらに細分化することができる。それぞれ

①急なもの ②緑が多いもの ③それ以外の 3 つに分けることとする。今後はそれぞれを「長区画道急」、「長区画道緑」、「長区画道」と表記する。

②幹線道

幹線道は沿道の様子により以下の 2 タイプに分類することができる。

①緑が多いもの ②それ以外
今後はそれぞれを「幹線道緑」、「幹線道」と表記する。

③小道

小道は、その延長より 3 つの分類に分けることができる。

①長い ②中程度 ③短い
それぞれを「長小道」、「中小道」、「短小道」と分けることとする。


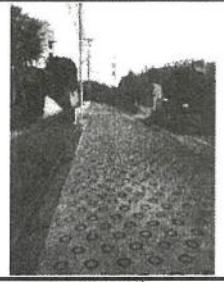
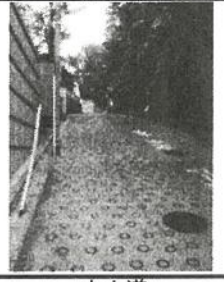



この中で「長小道」はさらに沿道の様子から 2 タイプに分類することができる。




①緑が多いもの ②それ以外
それぞれを「長小道緑」、「長小道」と定義する。このほかに上記の分類で分類しきれないタイプがある。折れの線形形状が特徴的で、延長の一部が踊り場状になっているものである。これを「踊り場」と表記する。

以上、世田谷区国分寺崖線上の坂道を 11 タイプに分類し、考察する。

表 2 坂道の各タイプごとの特徴及び代表的写真

短区画道	特徴
	沿道の宅地密度が大きい（生活感が大きい）ため、緑地が少なくまた、小規模な崖が多数存在するタイプである。役割としてその全てが「宅地」タイプであり、また、多くが戦後に造成されたものであることがわかった。8.1 で分類した「新興住宅地型」がこれにあてはまる。形状は直線のものが多い。これは区画を合理的に利用しようとした結果であると考えられる。さらに、延長が短いということからも予想がつくが、このタイプの坂道は、性質が近似している「単」一なエリア内に存在している、という傾向がつかめた。
長区画道	特徴
	このタイプは、宅地密度は概ね大きいですが、延長が長いということもあり、小さいものも確認された。また、区画道という性格から性質が近似している「単」一なエリア内に存在していた。

長区画道緑	特徴
	このタイプは、宅地密度が大きいですが緑地が多い特殊なタイプである。また、性質が近似している「単」一なエリア内に存在していた。
長区画道急	特徴
	このタイプは、長区画道の中でもその勾配が急なタイプである。また、共通の特徴として全て線形が直線であるということ、延長が 100~150m 程度で他の長区画道タイプに比べ短めであるということ、路面の舗装に円形の滑り止めがついているということである。このタイプのほとんどは岡本地域西側にあるということがわかった。
短小道	特徴
	このタイプは延長が極端に短いこと、また幅が狭いことが共通の特徴である。また、小道タイプに共通の特徴である、「複」数のエリアにまたがっているということも確認された。
中小道	特徴
	このタイプは「複」数のエリアにまたがっており、その線形には折れや曲がりがある、戦前からその線形が変わらないことが確認された。短小道、長小道のいずれにも分類されないタイプである。
長小道	特徴
	このタイプで興味深いのは、その性質にある。小道タイプは「複」数のエリアに坂道がまたがっていると仮定したのだが、結果をみると「単」一のエリア内に存在するものも多く確認された。また、共通の特徴として、宅地密度が小さく、道幅が狭いということがわかった。
長小道緑	特徴
	このタイプは住宅密度が小さく、緑地が多く、道幅が狭いことが挙げられる。また、線形が直線以外で、戦前から線形が変わっていなかった。これによりシークエンスに富む坂道となっている。名称のあるものも多く、人々から親しまれてきた様子が伺い知れる。また、「複」数のエリアにまたがっていることが確認された。

幹線道	特徴
	このタイプは緑地が少なく、戦後に新しく造成されており、直線状である。また、道幅が広く、ガードレールが設置されている大型の道路である。
幹線道緑	特徴
	このタイプもガードレールが設置されている大型の道路であり、「複」数のエリアにまたがって存在している。ただし、緑地が多く、宅地密度が小さく、線形に変化があるため、シークエンスが豊かなタイプといえる。また、傾斜が比較的緩やかで、延長は長いので、人々の印象に残りやすい。
踊り場	特徴
	このタイプの特徴は、なによりもその直角に折れた線形にある。幅が狭く、傾斜が急であるが、1部分の傾斜はほとんどないため、踊り場によく似た形状になる。戦後に造成されており、沿道の宅地密度が大きいことも共通している。

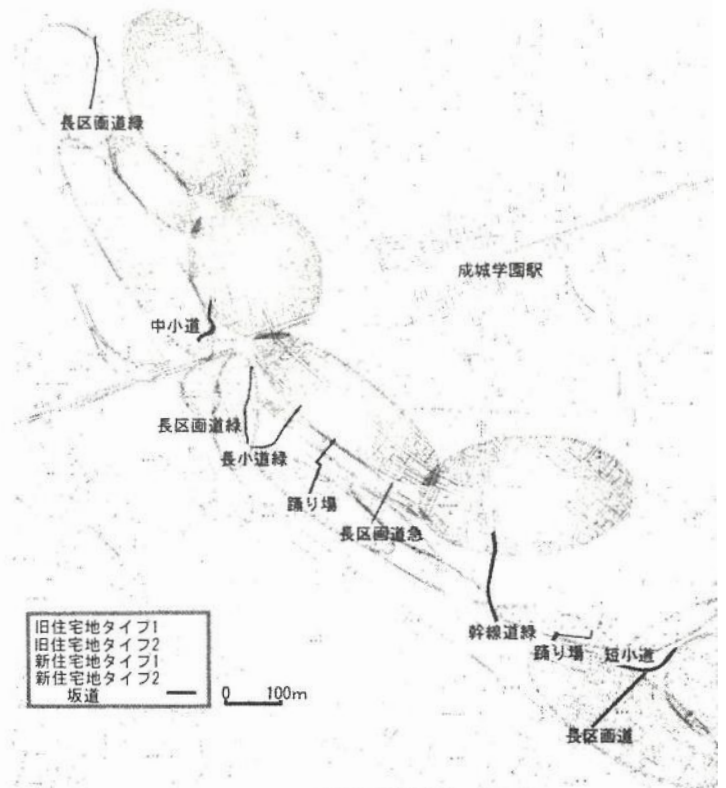


図 2 成城、喜多見地区における地区及び坂道のタイプ分類

9.2 各タイプの特色

現況調査結果及び今までの考察から、各タイプ毎に共通の特色をまとめ、表 2 に表す。また、図 2 のように対象地域全域について地区及び坂道のタイプ別を記した図を作成し、両者の関係性を考察する。

10. まとめ

区画道タイプは小道タイプ及び幹線道タイプに比べると名称がついているものが圧倒的に少ないという結果が得られた。この結果より小道タイプ、幹線道タイプは、より人の印象に残り、親しまれている様子がわかる。その中でも小道、幹線道両「緑」タイプはその傾向が強いことが確認できた。

地区ごとの坂道タイプの分布の特徴を考察してみたところ、一部を除いてその分布の偏りは見当たらなかった。ここから、世田谷区では多様な坂道が同じ地区内に存在しているということがわかった。この事実より、世田谷区国分寺崖線上の坂道では多様な景観体験が出来、それがこの地域に面白みを持たせているということが確認できた。

参考文献

- 1) 畑中隆志、三浦昌生「地形模型による埼玉県の地形と人口集中地区の広がりの考察」、日本建築学会学術講演梗概集、D-1 分冊、pp975-976, 1998
- 2) 千葉一輝、菊池牧子、川本哲也、戸沼幸市「東京の眺望に関する研究 その 6 地形及び土地利用から見た日暮里富士見坂の眺望」、日本建築学会大会学術講演梗概集、F-1 分冊、pp233-234, 1997
- 3) 福田英二、宮下俊彦、三島伸雄「狛師町地区における家屋と地形、道路との関係-玄界灘に面する呼子町の空間構成に関する研究 (その 2) -」、日本建築学会学術講演梗概集、F-1 分冊、pp685-686, 1999
- 4) 小林拓人、荒船忠之「傾斜地に建つ集合住宅の研究～地形と建物の関係～」、日本建築学会学術講演梗概集、E-2 分冊、pp351-352, 1999
- 5) 山本俊雄、加藤一雄、松村晃、加村隆志「沖縄地方組積造建築物に関する調査学術研究 その 8 中部地域の地形、地質の概要」、日本建築学会学術講演梗概集、C-2 分冊、pp993-994, 1996
- 6) 東京都 2500 デジタルマップ地形図画像東京都
- 7) 柏書房 東京一万分一地形図集成
- 8) 近現代の東京都心部における斜面地の変容に関する研究、松本泰生
- 9) 町並み景観と道の折れ曲がり効果、景観デザイン研究会、2001
- 10) 斜面構造物のデザイン、景観デザイン研究会、2001
- 11) 山岳地形を読み込んだ道路線形、景観デザイン研究会、2001
- 12) 道路構造物の景観デザイン、景観デザイン研究会、1995
- 13) 道路構造物の景観デザイン II、景観デザイン研究会、1997